

学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書（総評）

情報科学部

1. 評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析 項目 1-1-1	分析 項目 2-1-1	分析 項目 2-1-2	分析 項目 2-2-1	分析 項目 2-2-2	分析 項目 3-1-1	分析 項目 4-1-1	分析 項目 4-2-1	分析 項目 4-2-2	分析 項目 5-1-1	分析 項目 5-1-2	分析 項目 5-2-1
情報科学部	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5

自己点検・評価単位	分析 項目 6-1-1	分析 項目 6-2-1	分析 項目 6-3-1	分析 項目 6-3-2	分析 項目 6-3-3	分析 項目 6-4-1	分析 項目 6-4-2	分析 項目 6-4-3	分析 項目 6-5-1	分析 項目 6-6-1	分析 項目 6-6-2	分析 項目 6-6-3
情報科学部	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4

自己点検・評価単位	分析 項目 6-6-4	分析 項目 6-6-5	分析 項目 7-1-1	分析 項目 7-1-2	分析 項目 8-1-1	分析 項目 8-1-2
情報科学部	5	5	5	5	5	5

(⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない)

2. 評価結果に対する総評

令和3年度の学士課程教育の完成年度を経て、更なる教育の質の改善・向上のため令和4年度入学生から導入した3つの教育プログラム（2年次から。計算機科学プログラム、データ科学プログラム、知能科学プログラム）及び3つの履修モデル（3年次から。基礎履修モデル、実践履修モデル、融合履修モデル）について、円滑な実施及びこれまで以上に高度できめ細かい専門教育実施に向けた対応及び準備を行った。

令和5年度入学生を3年次から履修モデルに配属するため、4月及び2月の2回のガイダンス・説明会に加え、10月にもガイダンスを行い、学生が履修モデルの理解を深めた上で選択できるよう十分な配慮を行った。その後、3月の教授会・教員会で学生の希望及び成績等を基に配属する履修モデルを決定した。

また、具体的な対応・準備として、実践履修モデルにおいては、「長期フィールドワーク」（3年次後期及び4年次後期に行う各4か月計8か月にわたる有償インターンシップ）の実現のため、地元企業と入念な協議を進めた結果、中国電力株式会社、株式会社ドリーム・アーツ、株式会社広島銀行、復建調査設計株式会社、マイクロンメモリジャパン株式会社、マツダ株式会社（以上、社名順）の計6社に協

力いただけることになり、7名の学生（実践履修モデル配属）を派遣した。2月には「長期フィールドワーク成果報告会」を開催し、受け入れ企業の関係者をはじめ、学内外から100人以上の参加があった。

次に、融合履修モデルの対応・準備としては、学生への希望調査において、3名の希望（総合科学部、生物生産学部、医学部に各1名）の希望があり、各学部長をはじめ教務関係教員にご協力いただき、具体的な科目の履修や指導体制等について協議を重ねた。各学部からは融合履修を希望する学生の受入れ承諾を得たが、融合履修モデルの配属要件単位不足や学生個人の事情により、結果的には医学部との融合履修を希望する1名のみの配属となった。

現状、融合履修モデルを希望する学生は各学年で数名にとどまっていることから、今後は配属要件単位の引き下げ等を含め、学生が融合履修モデルを積極的に選択できるような体制の整備を検討する予定としている。

その他、令和6年5月には、文部科学省が実施している「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」において、情報科学部の必修科目のみで構成する教育プログラムで「応用基礎レベル」の申請を行い、令和6年8月に認定された。